Temporal Trends in Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention 1984-2010 - Report From the Juntendo PCI Registry

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2016-03-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 内藤, 亮
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001834

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1691 号

Temporal Trends in Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention 1984-2010 - Report From the Juntendo PCI Registry

(経皮的冠動脈形成術後の臨床成績の時代的変遷)

内藤　亮（ないとう　りょう）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、経皮的冠動脈形成術（PCI)の臨床成績が PCI 黎明期である 1980 年代から現在にかけて改善したかどうかを、1984 年から 2010 年にかけて順天堂医院で PCI が行われた患者を対象に検討した論文である。

対象集団 3831 人を、PCI が行われた時期によって POBA-, BMS-, DES-era の三群に分けて臨床成績の比較を行ったところ、1984 年から 2010 年にかけて PCI を受ける患者は高齢化し、合併疾患を多く有するようになった。一方、複合心血管イベント(全死亡、非致死性急性冠症候群、非致死性脳卒中、再血行再建術)の発生率は経時的に低下し、多変量解析においても PCI 黎明期と比較して、現在の PCI 後の臨床成績に改善を認めた。このことから近年 PCI を受ける患者は二次的心血管イベントを起こしやすい患者が多く含まれるようになったが、それに反して PCI 後の臨床成績は改善したことが明らかとなった。

本論文において、PCI 後の心血管イベントが経時的に改善し、その臨床成績の改善には PCI の技術的進歩・使用デバイスの改良、および心血管イベント二次予防を目的とした EBM に基づいた薬物治療の普及が影響していると推測された。本論文は、本邦における PCI 黎明期から現在にかけての臨床成績の時代的変遷を初めて明らかとした点で臨床的意義が高い論文と言える。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。